

ごあいさつ

大阪市小学校教育研究会
体育部長 児島 慎一

大阪市の体育部では、研究主題を「体育科の学びの質を高める指導方法の工夫」サブテーマを「子ども一人一人の探究的な学びの質を高める指導者の働きかけ」とし、研究活動2年目を迎えました。平成25・26年度の研究で「動作の言語化」「言葉の動作化」を学習に積極的に取り入れることで「運動との対話」の質が高まり、「仲間との対話」が活発になることが明らかになった研究成果を基盤として、平成27年度より子ども一人一人が「体育の学び」に目を向け、課題を探究していく過程での指導者の働きかけに焦点をあてて、学びの質を高めるための指導の在り方を追求してまいりました。また、「運動が苦手な子」「運動が好きでない子」に対して、指導者はどのような視点をもてばよいか、どのようなアプローチをしていくのかなど実践的、事例的な研究を「体つくり」「器械」「陸上」「水泳」「ゲーム」「ボール」「表現」7つの領域に分かれ、研究を進めてまいりました。そして研究1年目で次の点が明らかになりました。

指導者が「つまずきに迫る視点」をもつことで「運動が苦手な子」が進んで学習する場面が増える。

指導者の「動きのコツをつかませる言葉かけ」により、「目標とする動きができるにくい子」がよりよい動きを身に付けようとする。

2年目の本年度は、様々なつまずきのケースを検証し「つまずきに対する視点」をさらに深めるとともに、ICT機器（タブレット端末）の効果的な利用法について検討し、指導に活かせるようにする研究に取り組んでまいります。

研究の方法については、昨年度に引き続き「広める」「深める」「究める」をキーワードとして進めてまいります。「広める」では、小学校体育研究会主催の「体育科基本研修会」や大阪市教育委員会・大阪市教育センターと連携した「教育課程研修会」「体育科実技研修会」の実施をはじめ、各領域部員が自らの学校や区内において授業公開したり学習カードや学習資料を提供したり実技研修会を開いたりします。

「深める」「究める」では、これまでの体育部先輩方が培い積み上げられてきた研究の歴史と成果を学び、継承するとともに、現在の子どもたちの実態を深く見つめ、実態に応じた実践を深めていくこと、平成27年3月に発刊した『子どもの学びを育てる体育指導の手引』の学習内容・方法を平成30年度より実施される新学習指導要領に準拠したものへとさらに改善を加えていきたいと考えています。

平成29年2月10日(金)には、大阪市立丸山小学校にて授業公開を行い、2年間の研究成果を発表いたします。ご参加のほどよろしくお願いいたします。